



伊万里市議会主催の『子ども議会』を初開催

7月23日、市議会本会議場で『子ども議会』が開催されました。

これは、子どもたちが市政や議会のしくみについて学べる機会を設け、主体的に考える力を育んでもらおうと、市議会議員の企画・立案により初めて開催されたものです。

この日は、公募で参加した市内の小学5・6年生10人が、模擬常任委員会としてグループワークに参加しました。『学校にほしい物やあったらいいと思う物』をテーマに、議員の助言を受けながら活発に意見を出し合い、その内容を本会議場で発表するなど、議会の役割や話し合いの大切さを学んでいました。



議員が見守るなか、本会議場で意見を発表する子どもたち

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No.284

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。

これを機会に、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

問合先 生涯学習課人権・同和教育係 (HP ☎ 23-3186)

『こどもの人権』について ～児童虐待～

こどもは未来を担う大切な存在です。しかし、近年、虐待やいじめなど、こどもが被害者となる事件や事故が多発しています。また、いじめを苦にした自死や殺人などにより、多くのこどもの尊い命が奪われています。

こどもの健やかな成長を妨げるもののなかで虐待があります。虐待と聞くと身体的暴力を思い浮かべがちですが、こどもへの虐待の中で一番多いのが心理的虐待、次に身体的虐待、次いでネグレクトといわれる養育の怠慢や放棄です。

そして親子を取り巻く環境が変わってきています。数十年前までは、こどもは大家族や、地域のおとなの目に見守られながら育ってきました。核家族化が進み、ご近所付き合いも減り、育児の悩みを気軽に相談できる相手もなく、親子が家庭の中に孤立している状況も多く見られます。

虐待は、家庭という密室の中で起こります。それだけに、虐待を防ぐには、地域の人による早期発見が大切です。「もし、違っていたら…」と思うと電話をするのには勇気がいりますが「ちょっと気になるこどもがいる」という1本の電話がSOSを発しているこどもと親を救うことにつながります。

こどもは親の従属物ではなく、独立した人格を持っています。地域社会全体で一人一人の声に耳に傾け、その発する信号をキャッチし、温かく受け止めることが必要です。虐待、いじめ、自死、犯罪などからこどもを守るのは社会の責任です。

郷土の文化財

問合先 生涯学習課文化財係 (☎ 22-1262)

遺跡余話 古墳時代 伊万里湾の攻防 その4

前回まで説明をした空路寺古墳、夏崎古墳は副葬品から大和政権など畿内との強い繋がりと考えられています。夏崎古墳が造られてから約70～80年後の6世紀中頃に、今度は山代町久原の小島に古墳（小島古墳）が造られました。古墳のある島は、かつて海岸から約400m離れていましたが、今では埋め立てにより陸続きとなっています。

小島古墳は前方後円墳で、全長約43m、前方部の最大幅は約25mあり、島の最高位（標高約28m）に位置しています。後円部には、石室へ入る通路（羨道）が約6.4mあり、その先に長さ約3m、幅約3m、高さ3.8mの石室があります。小島は砂岩で形成された島ですが、石室の石材は玄武岩です。このことから、古墳に使われた石は、わざわざ他の場所から船に乗せて運ばれたと考えられています。

被葬者は、島外から石材を船に乗せて運ばせ、島の最高位に前方後円墳を造ることができるほどの権力を持った人物であったと思われる、畿内との強い関係性があると考えられています。



小島の全景（矢印は小島古墳の位置）